UN WOMEN JAPAN Tokyo Sub-Committee

特定非営利活動法人 国連ウィメン日本協会 協力協定団体
国連ウィメン日本協会東京

News Letter

Vol.36
2025.4.25

私たちと国連

国際社会の先駆事例を国内へ：CSW69参加から見えた国際社会との連携の大切さ

JAWW CSW69ユースレポーター
髙橋里奈
（JAWW：日本女性監視機構、https://jaww.info）

世界人権宣言に連動しスタートした「**国連女性の地位委員会（CSW）**」。その流れは脈々と続き世界のジェンダー平等政策に大きな影響を与えてきました。近年、多くのユースもこの流れに合流し始め、実質的な成果を上げつつあります。一国の平和は他国とのバランスなしには成立しない現在、外から日本を見る視点の重要性が浮かび上がってきます。

私は今年4月より小学校教諭として勤務を始めることから、今回のCSW参加は、将来子どもたちに自分の身体や権利について学ぶ機会を提供するため、そして日本でも包括的性教育（CSE）を拡充していくためのモデルを探ることを目的として参加しました。主にSRHR（性と生殖に関する健康と権利）に焦点を当てたセッションに多く参加しましたので、いくつかご紹介します。

初日に参加したスウェーデン政府主催のサイドイベントでは、SRHRに関連する新たな法案が提案されており、「My body, My choice」という理念をもとに、プレコンセプションケアやCSEを含む包括的な法案内容が示されました。生涯にわたり国民のウェルビーイングを保障することを目的としたこの法案の背景には、国家としてSRHRを包括的に制度化しようとする強い意志が見て取れ、他国にとっても参考になる姿勢だと感じました。

また、教育アプリを通じてSRHRを学べる取り組みを紹介したパラレルイベントにも参加しました。これはアフガニスタンなど支援の届きにくい地域に向けて、子どもたちがゲーム形式で身体や性に関する知識を学べるよう開発されたもので、デジタル技術を活用した革新的なアプローチに大変感銘を受けました。

さらに、ルワンダ政府主催のセッションでは、男性のケア労働への参加に焦点が当てられていました。若い世代の男性が父親世代よりも育児に関与している一方で、3分の2が育児による社会的孤立を感じているという実態が報告されました。現在ルワンダでは、男性が4ヶ月の育児休業を取得できるよう最高裁に訴訟を起こす動きもあり、育児を通じたジェンダー平等の推進が進められています。国の発展途上段階において父親の育児参加が当たり前となる文化を築こうとする姿勢に、感銘を受けました。

余談になりますが、知人の紹介で台湾政府による「ジェンダー平等Week」関連イベントにも参加しました。台湾初の女性首相である蔡英文前総統の「台湾はジェンダー主流化を国家として進める」という強いメッセージには、多くの参加者が感動し、会場全体が一体感に包まれました。今回のCSWでは台湾からの若者参加が非常に多く、ある団体によれば政府がユースの参加費や渡航費を支援しているとのことでした。日本では参加が実費になることが多く、経済的理由で参加を断念する若者もいます。台湾のように、国家が若者のジェンダー平等への参画を後押しする仕組みは、日本も学ぶべき点だと感じました。

今回のCSW参加を通して、ジェンダー平等は教育・保健・労働など多分野と結びつくテーマであり、学校現場でも教科横断的に子どもたちに伝えることができると再確認しました。今後は今回の学びを活かし、教育現場での授業づくりと、CSEの必須化に向けたアドボカシー活動にも取り組んでいきたいと思います。ご支援いただいた皆様、ありがとうございました。

国連ウィメン日本協会東京 2025 年度定例総会報告

2025年2月17日(月)13時30分より、今井館 集会室1・2・3において、2025年度国連ウィメン日本協会東京定例総会が開催されました。

城倉純子国連ウィメン日本協会東京会長の挨拶に続き開催宣言が行われ、議長に城倉純子会長を選出、書記に縄田眞紀子、議事録署名人に鷲見八重子各会員を選出、出席者の承認を得て議事に入りました。

第1号議案は2024年度事業報告、第2号議案は2024年度決算報告と監査報告があり、異議なく満場一致で承認されました。第3号議案の2025年度事業計画案、第4号議案の2025年度予算案についても異議なく満場一致により承認され、全ての議案が滞りなく終了しました。

休憩を挟んで、「国連ウィメン日本協会東京25周年交流会と記念展示」を開催、これからの活動に生かされる貴重な知見をいただきました。 (縄田眞紀子)

2025年度 役員

会　長　城倉純子
副会長　阿部幸子
　　中曽美穂子
書　記　縄田眞紀子
会　計　田邉光子
会計・会員　牧島悠美子
広　報　長谷川瑞穂
事　業　中山正子
事　業　渡部由紀子

2025年度 監事

太田惠子・背戸民恵

2024 年度決算報告 (2024.1.1 ～ 2024.12.31) (会計報告 田邉光子)

収入	会費		319,000
	寄付	寄付	224,000
		活動寄付	128,000
	広報・啓発		0
	事業費	コンサート	103,000
		バザー	292,900
	募金		4,000
	利息収入		135
	雑収入		0
	前期繰越金		1,445,938
	収入合計		**2,516,973**

支出	広報・啓発		250,580
	事業費	コンサート	100,510
		バザー	155,500
	管理費	事務所費	360,000
		事務費	103,054
		拠出金	261,300
		分担金	75,000
		次期繰越金	1,211,029
	支出合計		**2,516,973**

2024 年度拠出金
国連ウィメン日本協会東京拠出金額
261,300 円

皆様のご協力ありがとうございました。

学び　25 周年記念行事　交流会と記念展示の開催

2月17日の総会終了後、第II部25周年記念行事として、記念交流会が開かれました。国連ウィメン日本協会東京の前身である「ユニフェム東京」の発足から現在までの歩みと活動報告を会長と阿部副会長のPPTによるプレゼンで振り返り、また「思い出を語る」フリートークでは、鷲見元会長はじめ、白根様、雨宮様、中山役員、牧島役員、中曽副会長からのお話などから先輩諸姉を偲び、その功績を称え合いました。

展示室には、創刊号から最新号までの全てのニューズレター、イベントポスター、リーフレット、人気のあったバザーグッズなど懐かしいものが飾られました。

国連は1975年を国際女性年と定め、「平等・開発・平和」をテーマに第1回世界女性会議をメキシコシティにおいて開催しましたが、同年11月に日本では、41の全国組織の女性団体が結集して「国際婦人年日本大会」を開催、「国際婦人年の決議を実現するための連絡会」を発足させました。翌年の1976年には、ユニフェムの前身である「国連婦人の10年のための自発的基金」が国連内に設けられましたが、事務局長のマーガレット・スナイダー氏が国連総会に出席中の中村道子氏に、日本政府への支援を要請されたことが、この長い歴史の始まりとなりました。

「国連女性開発基金(UNIFEMユニフェム)」と改称された1985年に、国際婦人年連絡会は「開発」の学習を開始し、1990年にユニフェムを支援する特別決議を採択。翌年には連絡会の中に「連絡会ユニフェム委員会」の設置を決定、1992年11月には「ユニフェム日本国内委員会」の設立総会が開催されるに至りました。ユニフェム東京はその東京地域委員会として2000年4月に発足しました。

その後2010年の国連改革に伴い、それまでの国連内の4つの女性機関(UNIFEM/ INSTRAW/ DAW/ OSAGI)が統一され、2011年より“UN WOMEN”となりました。国内では何度かの名称変更を経て、現在の「国連ウィメン日本協会」との名称に収まり、それを受けてユニフェム東京も2014年に「国連ウィメン日本協会東京」に改称し現在に至っています。

2012年にはUN WOMENの初代事務局長であるミシェル・バチェレ氏が来日されましたが、歓迎会の様子を伝える写真などには、故五十嵐元会長のお姿も見られ、懐かしく当時を偲びました。今後は30周年を目指してミッションの遂行をと、一致団結の思いを新たにしました。 (城倉純子)

25周年に寄せて

国連ウィメン日本協会東京創立25周年おめでとうございます

国連ウィメン日本協会理事長　橋本ヒロ子

2010年の国連ウィメンの誕生とともに、日本ユニフェム協会が国連ウィメン日本協会に名称変更し、2000年に設立されたユニフェム東京も、日本協会の名称変更とともに国連ウィメン日本協会東京と名称変更されました。2000年は、国連安保理決議1325（WPS女性平和安全保障決議）が採択された記念すべき年でした。

その後2022年2月の、ロシアのウクライナ侵攻、2023年10月ハマスによるイスラエル人攻撃、拉致が起こり、イスラエル軍のガザ攻撃、ヨルダン攻撃、スーダンの内戦など、世界は、次々と戦争状態になっています。このような状況を変えていくためには、2010年に国連改革の一環として設立された国連ウィメンがWPSの精神に則り、平和を作っていく方向に進むことが必要です。

紛争解決、平和構築という大きな目標を視野に入れ、私達国連ウィメンにかかわっている者は、広報活動、募金活動を推進しなければなりません。とりわけ、トランプ大統領により、アメリカの開発途上国支援は中止の方向で、すでに中止された国もあり、資金がないため活動ができず、大変な状況です。この状況を改善するために私たちがしなければならないのは、日本国内における募金額を大幅に増やすことです。

国連ウィメン日本協会東京など地域協会と国連ウィメン日本協会が連携し、発展途上国の女性や少女達が平和構築で活躍できるように支援するための募金活動を更に勧めましょう。創立30周年に向けて、国連ウィメン日本協会東京の一層のご発展をお祈りします。

総会及び創立25周年記念交流会に出席して

白根和味（元ユニフェム東京役員）

まずは、創立25周年おめでとうございます。よくここまで続けてくださったと感謝の気持ちでいっぱいです。皆さん色々経験されご苦労されてきたことと思いますが、会の雰囲気は和気藹々とした和やかなものでした。幸い新しく会員になりたいという若い方も参加され頼もしく思いました。実に久しぶりに友人と今回の総会に参加させて頂きましたが、ユニフェム東京発足当時のメンバーとして、大変でしたが楽しかった記憶が蘇ってきました。

その頃は私達も若かったし活気とやる気に溢れていて、グッズ製作や販売、ロゴ制作、コンサートや講演会の実行、広報誌やリーフレットの作成など、みな初めての経験ながらお互いに知恵を絞り創意工夫をして、たとえダメでも何回も挑戦して計画を遂行させようというエネルギーが漲っていました。

「途上国の女性を助けたい」という熱い思いが皆の胸の中にあり、そのために何とか収益を沢山あげて、この会の存在や目的を広めてご理解いただき、会員数を増やす、ということに全員が一丸となって邁進していたように思います。

様々な経験も失敗も試行錯誤もありましたが、そこで学んだことは自分自身の根幹となり今の生活でも挑戦していく心を忘れず、そのために方法や情報を集めて必ずやり遂げようとするようになったと考えています。

ここで出会い、一緒に考え悩み行動した仲間とは、年齢もバラバラですが今もかけがえのない友人として良いお付き合いをさせて頂いていてありがたく思います。

この会が25年も続いていることは本当に喜ばしく素晴らしいことです。この先はサステナブルな会の実現に向けてその可能性を探り、より良き道へと進んでいって欲しいと思っています。

『ユニフェム東京発足から25年の活動』を懐かしの写真とともに、スライドで振り返りました。

会に尽くされた方の遺品を手に、思い出を語られました。

ご参加ありがとうございました。笑顔あふれる会になりました。皆様のご協力に支えられています。

2025 年度 国連ウィメン日本協会総会、協力協定団体ネットワーク会議に参加して

2025年3月1日(土)に婦選会館において通常総会および協力協定団体ネットワーク会議が行われました。

午前中に開催された総会では、事業報告、決算、事業計画、予算案の審議、議決に加えて、昨年度は機会を捉えて積極的に広報活動を展開、それらの活動についての具体的な紹介もあり、今年も引き続き広報活動に取り組むとのことでした。なお、拠出金16,512,773円は、ウクライナ、ガザ危機、ロヒンギャ難民キャンプ、アフガニスタン、エチオピア(ICT)の支援、女性に対する暴力撤廃国連信託基金、コア(含緊急支援)に支出されました。

午後に開催された協力協定団体ネットワーク会議は、今年も登録5団体の内の4団体(北九州、大阪、東京、さくら)が出席し、活発な意見交換の場となりました。地域によって活動形態は異なるものの、活動や運営状況について示唆に富むお話が伺え、今後はお互いにより積極的に情報交換をして、企画を共有出来たらよいと思いました。また、協力協定団体が、日本協会の活動に積極的に協力できるように、募金、広報課題をめぐって理事の皆さんとも有意義な話し合いができました。私どもも日本協会との協働の機会を増やすように努めたいと思っています。　(阿部幸子)

国際女性デー報告：ウィメンズマーチ東京2025に参加しました！

国連は 1975 年、ジェンダーに基づく差別や暴力に反対するアクションを掲げ、3 月 8 日を「国際女性デー」に定めました。「ウィメンズマーチ東京」は、2017 年から毎年 3 月 8 日にウィメンズマーチを開催、今年も東京・渋谷駅周辺を約 1 時間にわたって行進しました。主催者発表では 800 人が参加、集合場所の神宮通公園北側を 13:20 に出発、土曜日とあって大勢の沿道の通行人にアピールすることができました。当日は肌寒く、カイロを配りあったりの労り合いがありました。

国連ウィメン日本協会は、本年よりウィメンズマーチ東京の賛同団体として登録、世界 13 カ国の国連ウィメン国内委員会と連動し、それぞれの国で一斉にマーチし、ジェンダー平等を訴えました。

国連ウィメン日本協会東京は日本協会に賛同し、国連のイメージカラーのブルーを身に着けて一緒に歩きました。「今日は国際女性デー、私の思いを声に出そう、あなたの声も聞かせてほしい!」「レイプカルチャーいますぐ根絶、性暴力を許さない、私のからだは私のもの、おまえが決めるな、勝手に決めるな」「ケア労働は社会に必須、ケア労働に金を出せ」「平和がなければ平等こない、平等なければ平和はこない」「すべての人の人権守れ、すべての人の尊厳守れ、あらゆる差別をなくしていこう」のコールを繰り返し元気に行進しました。　(城倉純子)

たくさんのご寄付・ご協力をいただき有難うございました。　(敬称略)

寄付者 (2024年11月1日～2025年3月31日)

鷲見八重子　阿部幸子　仲田裕子　友清和親（清友会）　牧島悠美子
中山正子　太田惠子　田邉光子　長谷川瑞穂　白根和味　加藤智子

会員募集中！
会員として一緒に活動しませんか？
年会費 3,000 円

編集後記

◆記念交流会では、改めて当会の歴史を皆様と振り返ることができました。創設当時の錚錚たる先輩諸姉の功労に感謝しました。　次々に悪化する世界情勢の下、挫けずに紛争地で尽力を続ける方々の人間力に敬意を表します (J)

◆創立25周年を迎え、これまでの歩みを振り返りつつ膨大な資料の収集作業に没頭。それらの資料は、今回は展示にとどめましたが、間もなく訪れる３０周年に向けて記念誌制作の手掛かりになると思います。反省を込めて、気が早いようですがそろそろ準備に着手されることを期待しています。(A)

◆総会後の交流会・記念展示では25年の歩みを振り返る素晴らしい機会となりました。20年前にご縁をいただきこの会に参加していますが、先輩方に本当に可愛がってもらって今ここにいます。感謝の気持ちが、「次の世代へつなぐ」私の原動力です。(N)

ご意見ご感想はこちらまで: E-mail:unwomentokyo@unwomentokyo.org

国連ウィメン日本協会東京
News Letter Vol.36
発行人: 会長　城倉純子
発行日: 2025年 4月25日

〒167-0042
東京都杉並区西荻北3-11-3-105
Tel/Fax　03-6913-9946
http://unwomentokyo.org